

---



# **WAGNER**

## **SOCIETY ORCHESTRA**

### **229th Regular Concert**

---

2020.3.24 Tue

サントリーホール 大ホール



第228回定期演奏会 すみだトリフォニーホール 大ホール

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ（慶應義塾大学文化団体連盟公認）は、1901(明治34)年、日本で初めての音楽科以外の学生による音楽団体（ワグネル・ソサイエティー）の器楽部門として誕生し、その名称はドイツの音楽家リヒャルト・ワーグナーの名にちなんで付けられました。リヒャルト・ワーグナーは、音楽と他の諸芸術とが結びつけられた楽劇の創始者であり、オーケストラの教科書とも言うべき「ニュルンベルクのマイスターインガー」第一幕への前奏曲、超大作として知られる楽劇「ニーベルングの指輪」などを作曲したことでも大変有名です。そんな音楽家に由来した「ワグネル」の名称には、ワーグナーの先進性や伝統に縛られない自由な発想、新しいものへ挑戦する開拓者精神を理想とする思いが込められています。

現在、年3回の定期公演、隔年で実施される国内外への演奏旅行を中心に活動しております。近年では、2018年の2月から3月にかけてプラハ、ミュンヘン、ウィーン、ブダペストのヨーロッパ4都市で公演を行い、現地のお客様からも好評を博しました。そして、今年の2月中旬には、国内演奏旅行と称し京都、福岡の2都市での公演を行ってまいりました。

また、入学式をはじめとする慶應義塾大学公式行事・式典における演奏、このほか、一般企業、小中学校や医療施設などからの大小様々な依頼演奏も行なっております。当団の活動はオーケストラ演奏に限らず、セクション演奏会やパート演奏会、部内演奏会など様々です。

音楽が好きな仲間が集うなかでの充実した活動は、先生方、先輩方、そして関係者の皆様のお力添えがあって初めて成り立っております。ここに、これまで支えてくださった全ての皆様へ感謝申し上げますとともに、今後も音楽と真摯に向かい、高い理想に向かって絶えず挑戦し続けてまいります。皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ  
第 229 回定期演奏会 延期公演

2020 年 3 月 24 日 (火)

18 時 30 分 開演

サントリーホール 大ホール

指揮

大河内 雅彦

Masahiko Okochi



—PROGRAM—

ウェーバー / 『魔弾の射手』序曲  
Weber / “Der Freischütz” Overture  
リムスキイ=コルサコフ / スペイン奇想曲  
Rimsky-Korsakov / Capriccio Espagnol

———— Intermission ———

マーラー / 交響曲第 10 番 嬰ヘ長調 (クック版)  
Mahler / Symphony No.10 in F sharp major (Cooke version)



慶應義塾長  
長谷山 彰

本日は、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ第229回定期演奏会へご来場いただき、誠にありがとうございます。

ドイツの音楽家リヒャルト・ワーグナーの名を冠した慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラは、1901（明治34）年秋に結成された、日本で最も長い歴史を持つ学生音楽団体です。ワーグナーの先進性や新しいものに挑戦する精神へ敬意を示すとともに、今日まで日々の鍛錬を重ねて伝統を築きあげてきました。

慶應義塾は創立以来、主体的に物事の本質を捉え、社会の進むべき方向を考える独立自尊の人材を、社会のあらゆる分野に送り出してきました。学問の領域にとどまらず、体育会や文化団体連盟などの団体においても目覚しい活躍をしている塾生がみられ、まさに福澤諭吉の言による「一身にして二生を経る」の体現であると大変喜ばしく思っております。

ワグネル・ソサイエティー・オーケストラの活躍もそのひとつです。年三回の定期演奏会を活動の中心とし、他にも一般企業、小中学校や医療機関などからの依頼を受け、実に幅広い演奏活動を行っています。慶應義塾内でも、大学学部入学式や福澤先生誕生記念会をはじめとする公式行事等における演奏活動は欠かすことのできない重要なものであり、今後も義塾とともにワグネル・ソサイエティー・オーケストラがますます発展していくことを、心から願っております。

本日の演奏会では、長年オーケストラをご指導頂いている大河内雅彦先生の指揮により、マーラー交響曲第10番など3曲が披露されます。ご来場の皆さまには、ワグネル渾身の演奏をどうか心ゆくまでお楽しみください。

末筆になりましたが、本演奏会開催にあたり、ご尽力いただきました皆さんに心から御礼申し上げるとともに、ワグネル・ソサイエティー・オーケストラへのさらなるご指導とご支援をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



慶應義塾ワグネル・  
ソサイエティー会長  
池田 幸弘

本日は、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ第229回定期演奏会へご来場いただき、誠にありがとうございます。

当団は、楽劇の創始者として知られるドイツの音楽家リヒャルト・ワーグナーの名を冠して1901（明治34）年秋に結成された、日本で最も長い歴史を持つ学生音楽団体であり、今年で創立119周年を迎えます。現在では年3回の定期演奏会を活動の主軸とし、慶應義塾を代表するオーケストラとして、入学式や福澤諭吉誕生記念式典などにおいて演奏を行うほか、様々な企業や学校による依頼演奏会への出演など、多岐にわたって活動しております。そして本年度は、国内演奏旅行実施の年にあたり、2月12日から20日かけて京都、福岡の2都市にて公演を行ってまいりました。

本日、当団正指揮者でいらっしゃいます大河内雅彦先生の指揮のもと演奏する曲目は、ウェーバー／『魔弾の射手』序曲、リムスキー＝コルサコフ／スペイン奇想曲、マーラー／交響曲第10番嬰ヘ長調です。マーラーやブルックナーといった後期ロマン派の作品は大編成をその一つの特徴としており、アマチュアならば誰しも一度は演奏してみたいという憧れの作品もあります。今回は、そのなかから十番を演奏いたします。私事になり恐縮ですが、私自身は経済思想を専門にしており、なかでも19世紀後半から世紀末までのオーストリアの経済思想を研究対象としています。素人ながら、この時期のかの地における音楽と聴衆にも関心を持っています。ウィーンでの滞在から感じたことは、この地の聴衆たちの、自分たちが植踏みする、という意識の高さです。マーラーもそうですが、ウィーンで活躍てきた音楽家も聴衆の評価のなかで激しい浮沈を経験しました。マーラーの十番は彼の交響曲のなかでも特異な位置を占め、やさしい曲ではありませんが、学生たちの演奏を楽しんでいただければと思います。

最後になりますが、本日の演奏会を開催するにあたりご尽力いただきました大河内雅彦先生、各パートトレーナーの先生方をはじめとする関係者の方々、並びに本日ご来場いただきました皆様に改めまして厚く御礼申し上げます。



コンサートマスター  
土井 卓人

本日は慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ第229回定期演奏会にご来場いただき、誠に有難うございます。本演奏会は2019年度の活動の締めくくりであり、そして私たち4年生の卒業公演となる集大成の場です。ワグネルに全力を注ぎ込んだ4年生の魂の情熱を筆頭に、成長著しい3年生、実力の片鱗を見せ始めた2年生、漸く環境に慣れた1年生と様々な想いが織りなす今夜限りのハーモニーをお届けできれば幸いです。

本年度を振り返ると、「挑戦」をテーマに川本貢司先生をお迎えし、当団初演となるラフマニノフ / 交響曲第3番等で見事な化学反応を起こした前期定期演奏会を幕開けに、「若さ」をテーマに新進気鋭の太田弦先生をお迎えし、リヒャルト・シュトラウス / 『ばらの騎士』等で音楽的表現の深みを学び、先の国内演奏旅行では当団正指揮者の大河内雅彦先生と共に、京都大学交響楽団の皆様との交流を始め、京都・福岡に於いて地域文化と歴史を体感しました。

さて、本演奏会でお送りする3曲をご紹介致します。前曲はドイツオペラの傑作、ウェーバー / 『魔弾の射手』序曲で善と悪の拮抗をエネルギーに打ち破る劇世界を描き、中曲のリムスキイ=コルサコフ / スペイン奇想曲では勝利の余韻のままスペインに旅をしたかのような華やかで明朗なジプシーの世界をお届けします。メインでは、マーラーの絶筆で未完の交響曲第10番をお送りします。夢と現実、躁と鬱、自由と束縛、苦悩と快樂、天使と惡魔、天上と現世そして狭間の煉獄など森羅万象の対称性を写し込んだ超大作を、マーラー研究の第一人者である音楽学者デリック・クックによる補筆版にて全曲演奏致します。

末筆になりましたが、本日の演奏会にあたりご指導いただきました諸先生方、諸先輩、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。またお忙しい中、本日御来場くださいました皆様に深く感謝致します。今後とも変わらぬ御支援を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。



学生責任者  
落合 なつ美

本日は慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ第229回定期演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

私たちは、日本で最も歴史のある学生オーケストラとして多岐にわたって活動を行ってまいりました。近年では、2018年にヨーロッパ4都市で公演を行い、昨年度には、3回の定期公演の他、複数のテレビ番組に取り上げていただきました。そして今年度は、4年に一度の国内演奏旅行が開催される年にあたり、2月12日から20日にかけて京都、福岡の2都市で公演を行ってまいりました。いずれの公演も多くのお客様に足をお運びいただき、団員一同にとって非常に貴重な経験となりました。こうした充実した音楽活動を続けることができるのも、偏に当団に関わるすべての皆様のおかげでございます。この恵まれた環境に感謝を絶やさず、今後の活動にもひたむきに励んでまいります。

本日の演奏会は、今年度の集大成ともいえ、当団の4年生にとっては引退公演にあたります。今までを共にした先輩方との最後の演奏であるだけでなく、各々が一年間のワグネル生活を締めくくる最後の演奏でもありますゆえ、団員それぞれが強い思いを込めて臨む公演であります。こうした節目を幾度となく迎えてきた当団は、今年で創立119年を数え、輩出した先輩方の数は約3000名にのぼります。先人たちによって培われたワグネルの伝統が長い年月を経て脈々と受け継がれていることを、折に触れて強く実感しております。本日引退される4年生の思いをまだ見ぬ未来の後輩へと受け継ぐためにも、ワグネルでの時間を残すわれわれ後輩たちは、これからも着実に前進し続けてまいります。

団員一人ひとりの思いが織り成す音楽が、皆様の心を動かすことができましたら幸いです。どうぞ最後までごゆっくりとお楽しみください。

末筆ではございますが、いつもご指導くださる先生方、本日の演奏会にご協力くださいました皆様、そして本日お越しくださいましたお客様、すべての方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 指揮者紹介

## Conductor



指揮者(当団正指揮者)

大河内 雅彦  
Masahiko Okochi

1971年、愛知県生まれ。愛知県立岡崎高校を経て、東京藝術大学器楽科卒業。これまでに指揮をハンス・グラーフ、カール・エステルライヒャー、湯浅勇治、小松一彦、広上淳一の各氏に師事。

2002年4月より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の指揮研究員として飯守泰次郎・矢崎彦太郎両氏のもとで研鑽を積む。同団副指揮者を経て、2007年6月より2010年9月まで、東京シティ・フィルのアソシエイト・コンダクターを務める。この間に同団の100公演以上を指揮。

またこれまでに広島交響楽団、日本センチュリー交響楽団(旧大阪センチュリー交響楽団)、Osaka Shion Wind Orchestra(旧大阪市音楽団)、シェナ・ウインドオーケストラ、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、東京都交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団(旧大阪シンフォニカ一交響楽団)、中部フィルハーモニー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラを指揮。

オペラの分野では、日生劇場開場50周年記念公演「メデア」および「リア」に音楽スタッフとして参加。

2014年12月には、マケドニアの首都スコピエと第二の都市ビトラにて、マケドニア国立オペラ・バレエ劇場の「夕鶴」公演(協力:東京オペラ)を指揮。2018年11月の「後宮からの逃走」(主催:東京二期会)に合唱指揮として参加。このほかに「フィガロの結婚」、「魔笛」、「椿姫」(抜粋)、「奥様女中」を指揮。

第49回ブザンソン国際指揮者コンクールセミ・ファイナリスト。

2006年度より上野学園大学音楽文化学部において、オーケストラと指揮研究科(～2016年度)の非常勤講師を務める。

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラとの関わりは、副指揮者としての活動期間も含めて20年以上となる。



桂冠指揮者

河地 良智  
Yoshinori Kawachi

桐朋学園大学指揮科に学び、斎藤秀雄、秋山和慶の両氏に師事。1973年、第3回民音指揮コンクール（現東京国際指揮コンクール）で奨励賞受賞。二期会オペラやN響定期公演などで、W.サヴァリッシュ氏、O.スヴィトナー氏等の副指揮者を務め、1975年、群響正指揮者に就任。

1983年より文化庁海外派遣員としてドイツ・バイエルン国立歌劇場でW.サヴァリッシュ氏、ミラノ・スカラ座でG.パタネ氏、バイロイト祝祭歌劇場でW.ワーグナー氏に、また、プラハ国立歌劇場でZ.コシュラー氏等について積極的に歌劇場での研鑽を積む。

帰国後、モーツアルトのピアノ協奏曲全曲演奏を7年かけ完遂し、注目を浴びる。また、日・米・伊共同国際ワークショップにおいて「蝶々夫人」のプレジャ版を初演、二期会渡欧旅行公演同行の際には、ベオグラード・フィル、ハンガリー国立歌劇場管弦楽団を指揮する。1991年から音楽之友社の企画する「モーツアルト・オペラ全曲シリーズ」の音楽監督として21曲全曲の指揮をし、山田耕筿生誕110年記念コンサートや渋谷ビーム「魔笛」公演等を指揮する。

1996年東芝フィルハーモニー管弦楽団アメリカ演奏旅行でアーヴァイン、ナッシュビル、ニューヨーク等各地で公演を行う。特に、カーネギーホールで行われた演奏会は日米各紙で取り上げられ注目を浴びる。

1997年「すみだトリフォニーホール」のオープニング公演に墨田オペラの音楽監督として「カルメン」、5周年公演として「メリー・ウィドウ」を成功させた。1998年には、日本エンゲオーケストラを結成し、1998年、2001年に北京で日中合同オーケストラの指揮をする等、国際交流にも力を注いでいる。また、東京トロイカ合唱団の常任指揮者として、ラフマニノフの名曲「晩祷」の連続演奏を続けており、2004年1月には文化庁国際芸術交流事業でモスクワ・サンクトペテルブルグにおいて、同合唱団の公演を指揮した。これまでの貢献により、北京市中日交流センター、オーストリア・ブルゲンランド州、諫早市より文化特別賞等を受ける。

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラとは1976年以来4回の渡欧公演や数多くの定期演奏会を指揮し、現在は桂冠指揮者を務めている。その功績により1991年に特撰塾員に選出された。

現在洗足学園音楽大学副学長、教授、及び同大学院音楽研究科長として後進の指導にもあたっている。

# トレーナー紹介

## 戸澤 哲夫（弦楽器）

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程を修了。この間、読売新聞社主催新人演奏会に出演。

大学院在学中の1995年1月、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスターに就任し、現在においてまでその重責を果たしており、内外の指揮者からの信望も厚い。

1994年にアルペリ弦楽四重奏団（ASQ）を結成し、また1996年から安田弦楽四重奏団のメンバーに加わり、ペーター・シュミードル氏など共演者も数多い。ASQでは、ベートーヴェンの室内楽作品全曲演奏（90曲以上）に7年越して取り組むなど、テーマ性を持った活動も特筆される。

ソリストとしても、各地でのリサイタル活動に加えてオーケストラとの共演も数多く、これまでに東京シティ・フィルをはじめ、東京フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、広島交響楽団などと共に演奏を重ねており、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラとも、2009年6月第196回定期演奏会でのブラームスの協奏曲にて共演を果たしている。1998年11月より1年間、アフィニス文化財団の海外派遣事業によりドイツ・ベルリンに留学、元ベルリン・フィルコンサートマスター故ライナー・クスマウル氏のもとで研鑽を積む。

2001年、ショスタコーヴィチに定評のあるモルゴー・クアルテットのメンバーに加わり、その活動は、2015年大晦日から16年元旦にかけてみなどみらいホールでの「1夜でのショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲15曲全曲演奏会」という大胆な試みを成功裡に終わらせたほか、プログレ名曲をカバーしたアルバム「21世紀の精神正常者たち」「原子心母の危機」「トリビュートロジー」全てがAmazonヒットチャート1位を獲得するなど大きな反響を呼び、2010年度アリオン賞、2015年第14回佐川吉男賞を受賞。

また、2019年には指揮者藤岡幸夫プロデュースによる新弦楽四重奏団 The 4 Players Tokyo のリーダーとして指名され、BSテレ東「エンター・ザ・ミュージック」におけるレギュラーカルテットとしての活動も開始。弦楽四重奏をより身近な存在とすること、またその魅力を伝えるべく今後の展開に注目が集まっている。

現在、国立音楽大学非常勤講師、マエストローラ音楽院講師。

## 澤田 和慶（ヴァイオリン）

1997年 東京音楽大学入学。在学中に特待生奨学金を得る。2001年 同大学研究科入学。同年 新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。2003年 同オーケストラとメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を共演。2005年 アフィニス夏の音楽祭に参加。これまでに藤原浜雄、ティボール・コヴァチ、ルイス・キャプランの各氏に師事。

## 眞中 望美（ヴァイオリン）

5歳よりヴァイオリンを始め8歳の時NHK「ヴァイオリンのおけいこ」に出演。以後室谷高廣氏に師事し桐朋学園女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業。在学中ヴィオラを岡田伸夫、室内楽を原田幸一郎・安田謙一郎・江藤俊哉の各氏に師事。

卒業後も国内外の音楽祭にてV・クリモフ、S・クラップ（Vn）、P・オクセンフォーファー、G・ハーマン、T・アダモプロス（Va）他、室内楽を含む指導を受け研鑽を積む。

2006年度は契約団員として新日本フィルハーモニー交響楽団2VI フォアシュピーラーを勤めた。

各地オーケストラや室内楽の他、多方面において violin、viola の演奏活動と共に、ソロ・社会人オーケストラ・アンサンブル等の指導に力を注いでいる。

## 矢浪 礼子（ヴィオラ）

ヴァイオリンを3歳から始め、後大学よりヴィオラを専攻。国立音楽大学付属高等学校、同大学を経て1986年新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。

ヴァイオリンを（故）藤本勇、（故）鷺見四郎、ヴィオラを渡部啓三、（故）Y・シュタール、R・フェリン、室内楽を（故）塚原哲夫、スメタナQ.の各氏に師事。

ヨーロッパ各地で行われているセミナー や音楽祭、又2011年のアジアフィルへ日本代表として参加など、様々な研鑽を積み、これらも基にオーケストラトレーナーとしての実績も高く評価されている。

オーケストラ・ソロ活動の他にゲーム音楽やCMなどの演奏・プロデュース、また病院・介護施設訪問演奏など、多彩な活動を進めている。

### **河田 夏実（チェロ）**

東京藝術大学付属音楽高等学校を経て同大学を卒業。東京文化会館新進音楽家デビューコンサートを始め数々のコンサートに出演。

1991年初リサイタル開催、1994～1999年には大倉山記念館にて毎年デュオコンサートを企画・開催し好評を博す。またその間、国内・海外の様々なマスタークラスやセミナーに参加し研鑽を積む。

1999年ユニット ROSE SOURCE で2枚のCDをリリース。現在はフリーにてオーケストラ・室内楽などで活動する傍ら、The Celloensembleconcert の企画・開催や、演劇関連の音楽など幅広く活動中。

松下修也、堀江泰、堀了介、林峰男、嶺田健の各氏に師事。

### **玉川 克（チェロ）**

5歳より才能教育研究会にてチェロをはじめる。宇都宮短期大学附属高校音楽科を経て、桐朋学園大学カレッジ・ディプロマ・コース修了。

2005年よりリサイタルを開始。2011年にはバッハの無伴奏組曲全曲を取り上げる。室内楽奏者として非常に多くの演奏会に携わっており近年新たに、出身地である栃木県において本格的な室内楽コンサートを届ける「玉川克の室内楽シリーズ」を主宰、毎年3回のコンサートを開催している。その他、客演首席奏者として国内の主要オーケストラから招聘されるほか、クラシック、ポップスなどジャンルを問わずレコード・デイニングへの参加多数。

### **吉田 秀（コントラバス）**

1986年東京藝術大学音楽学部卒業。同大学管弦楽研究部首席奏者を経て1991年NHK交響楽団に入団。現在首席奏者を務める。

室内楽の分野ではオーギュスタン・デュメイ、ピンカス・ズッカーマン、ライナー・キュッヒル、マリア・ジョアン・ピリス、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、カルミナ弦楽四重奏団、ベルリンフィルピアノ四重奏団、ターリッヒ弦楽四重奏団、メロス弦楽四重奏団などと共に演。またオイロスアンサンブル、東京シンフォニエッタ、紀尾井シンフォニエッタ東京、いずみシンフォニエッタ大阪、鎌倉ゾリストンなどのメンバーとしても活動。

霧島国際音楽祭、宮崎国際音楽祭などにも参加。東京藝術大学准教授、東京音楽大学客員教授として後進の指導にあたる。

### **村松 裕子（コントラバス）**

東京都出身。

1997年東京藝術大学卒業。PMFフェスティバル参加。1998年新日本フィルハーモニー交響楽団入団。2000年アフィニス音楽祭参加。2001年ドイツリューベック音楽大学入学。オーケストラ活動に加え、都内の小・中学校での演奏や指導の他、音楽作りワークショップリーダーとして幅広く活躍中。これまでに（故）江口朝彦、吉田秀、ヨルグ・リノビツキ各氏に師事。

### **大成 雅志（木管楽器）**

1973年大阪府大阪市出身。京都市立堀川高校音楽科を経て、1991年東京藝術大学音楽学部器楽科入学。イタリアにて催された、カール・ライスター氏（ベルリンフィル元首席）の国際マスタークラス受講オーディションに最年少で合格。翌年より休学し、ベルリンを中心にドイツ各地を歩き見聞を広げた。1998年東京藝大を中退。第68回日本音楽コンクール（NHK、毎日新聞社共催）クラリネット部門入選。現在、全国各地のオーケストラや室内楽、ソロ、スタジオなどフリーランスとしての演奏活動の他、アマチュアオーケストラ（国際基督教大学(ICU)CMS管弦楽団、東京都立新宿高校、東京ガス管弦楽団、ソニーフィル、名古屋シンフォニア、アンサンブル・コンソルテ、他）の指導者として、また吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストの審査員としても幅広く活動中。今までに水戸室内管弦楽団、小澤征爾音楽塾第2期生、宮崎国際音楽祭祝祭管弦楽団、ギドン・クレーメル＆クレメラータ・バルティカ室内管弦楽団日本公演、JTアートホール室内楽シリーズなどに参加。エロイカ木管五重奏団、アンサンブル東風メンバー。日本クラリネット協会会員、ホルツの会講師会員。クラリネットを海川雅富、内山洋、村井祐児、三界秀実、鈴木豊人、ヴェンツェル・フックスの各氏に、室内楽を山本正治氏に師事。

### 阪本 正彦（金管楽器）

東京都青梅市出身。1987年東京藝術大学卒業。ホルンを宇田紀夫、守山光三、千葉馨、室内楽を村井祐児、海鉢正毅、指揮を湯浅勇治、高階正光、松沼俊彦、下野竜也の各氏に師事。

1985年神奈川県立音楽堂推薦音楽会に出演。1986年東京交響楽団入団。オーケストラ活動のみならず、アマチュアオーケストラ・吹奏楽等への的確な指導にも定評がある。湯浅勇治氏（元ウィーン国立音楽大学准教授）による指揮セミナー受講を契機に指揮活動を始める。2012年フィンランドでのヨルマ・パヌラ指揮マスタークラス、2013年フィレンツェ国際指揮マスタークラス、2015年ブダペスト国際指揮マスタークラスなどに選考を経て参加、オーケストラと共に演奏の喜びを分かち合うなど、研鑽を重ねている。

現在、東京交響楽団ホルン奏者、Glanz 弦楽合奏団主宰／指揮者、横須賀交響楽団顧問／副指揮者、Ensemble à la carte 指揮者。奄美観光大使。

### 山本 英司（トランペット）

静岡県浜松市出身。

1999年東京藝術大学音楽学部卒業。

2000年第69回日本音楽コンクールトランペット部門入選。

これまでにトランペットを北村源三氏に、室内楽を稻川栄一氏に師事。

2004年から9年間、読売日本交響楽団に在籍した後、2014年よりNHK交響楽団トランペット奏者を務める。

室内オーケストラ「ARCUS」メンバー、国立音楽大学非常勤講師、桐朋学園大学非常勤講師、尚美ミュージックカレッジ専門学校講師、日本トランペット協会常任理事。

### 上田 智美（トロンボーン）

富山県出身。

2006年、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。

2000年、第7回日本トロンボーンコンペティション奨励賞受賞。2005年、第3回東京音楽コンクール金管部門第2位(最高位)。2006年、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトVIIに参加。2012年、第29回日本管打楽器コンクールトロンボーン部門第4位。2013年、東京にて開催された、イアン・バウスフィールド(元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団)トロンボーンアカデミーを受講。また、2014年、第35回草津夏季国際音楽アカデミーに参加し、同氏のマスタークラスを受講。

現在、オーケストラ・室内楽等で活動中。東京室内管弦楽団トロンボーン奏者。トロンボーンクアルテット・クラールメンバー。新潟県立新潟中央高校音楽科非常勤講師。

これまでにトロンボーンを秋山鴻市、神谷敏、稻場一朗、栗田雅勝、桑田晃の各氏に、室内楽を山岸博、神谷敏の各氏に師事。

### 山口 多嘉子（パーカッション）

東京藝術大学器楽科打楽器専攻卒業。同大学大学院修士課程修了。

ソリストとしてNHK交響楽団、東京交響楽団と共に演。また、準ソリストとして読響、フィルハーモニア管弦楽団(ロンドン)、関西フィルをはじめ国内の主要オーケストラ多数と共に演。

山口多嘉子パーカッションランドでCD「バードリズム」を、小柳美奈子氏とのデュオ「パ・ドゥ・シャ」では2枚のCD「シェシャねこ風パルティータ」「シェシャねこリターンズ!吉松隆作品集」をリリース。

2016年東京佼成ウインドオーケストラを退団。

現在、昭和音楽大学、洗足学園大学、東京学芸大学、各非常勤講師。

### 井上 美江子（ハープ）

11歳よりハープをヨセフ・モルナール氏に師事。桐朋学園高校、大学を経て、同研究科修了。アメリカ・インディアナ大学パフォーマー・ディプロマ修了。

マリア・コルチスカ国際ハープコンクール、福井ハープ音楽賞コンクール他、国内コンクールやオーディションなど受賞多数。文化庁在外研修員としてインディアナ大学に留学、スザン・マクドナルド氏に師事。現在はオーケストラ、独奏、室内楽、録音で演奏活動を行う一方、上野学園客員教授、桐朋学園非常勤講師として若いハーピストの育成にも力を注いでいる。国内での演奏活動に加え、ハープ奏者の国際的な組織“ワールドハープコングレス”的代表副会長として日本と海外のハープ界の懸け橋となる国際的な活動を行い、アメリカ、ヨーロッパ、アジア各地でのフェスティバルでの演奏やマスタークラスの開催、コンクールの審査など、海外での活動の機会も多い。

## ウェーバー / 『魔弾の射手』序曲

歌劇『魔弾の射手』はカール・マリア・フォン・ウェーバー (Carl Maria von Weber、1786-1826) の代表的な作品の一つであり、ドイツ・ロマン派音楽の基礎となる作品である。彼と同年代に活躍した作曲家には古典派を代表するルートヴィヒ・ヴァン・ベートヴェン (Ludwig van Beethoven、1770-1827) がいる。ウェーバーは、ベートーヴェンが15歳の時に生まれた。彼の作品はベートーヴェンの影響を受けている点が散見される。しかしながら、ロマンティックな旋律やより自由な和声法から彼の作品は古典派音楽ではなくロマン派音楽と分類されている。

この歌劇『魔弾の射手』はドイツの狩人たちの間に伝わる伝説、獵魔ザミエルに魂を売った者が魔法の弾丸を得て射撃の名人になるという話に基づいている。舞台は17世紀のボヘミアの森。狩人マックスには恋仲のアガーテがいる。アガーテと結ばれるためには領主の前で射撃競技を見事に成功しなければならない。しかし、最近の彼の狩りの調子は良くない。そんな彼は友人のカスパールに唆され、必ず意のままに命中する魔弾を铸造しに獵魔ザミエルの待つ狼谷へと向かう。アガーテの反対を押し切り狼谷に到着したマックスはザミエルに魂を売り7発の魔弾を手にする。しかし、この魔弾の7発目はザミエルが操れてしまうものであった。

射撃競技の直前、マックスは見事に標的に命中させて最後の魔弾を残して競技に臨む。一方アガーテは昨晩の夢を悪いことの前触れだと思っていた。白い鳩になった自分を狙ってマックスが銃を撃つという夢である。競技では領主がマックスに白い鳩を的命じる。これを見たアガーテが「撃たないで！鳩は私です！」と言い飛び出して倒れてしまう。しかし、それと同時にカスパールも倒れた。実は彼女は気絶しただけで魔弾はカスパールに命中していたのだ。魔弾の铸造を告白したマックスは領主に国外追放を言い渡されるが、そこに現れた隠者の懇願からマックスに1年の猶予が与えられる。その後、潔白となったマックスはアガーテと結ばれる。

今回演奏する序曲は序奏を含むソナタ形式で書かれており、マックスやザミエル、アガーテの歌劇中の様々な旋律が材料として使われている。序奏部は莊重なユニゾンの怪しい雰囲気から始まる。次にホルンがハ長調の旋律を豊かに奏することで焦点は舞台である森へと移る。この旋律は劇中には登場しないが、有名でとても美しい旋律である。またこの曲の他の場面でも度々現れるホルンの響きが壮大な森の雰囲気を作り出している。ホルンの四重奏が終わると再び不気味な雰囲気が曲を支配し、舞台は獵魔ザミエルの待つ狼谷へと移っていく。

第一主題部は狼谷を舞台にマックスの募る不安とザミエルのそれぞれの主題が緊迫感を生む。第二主題部ではマックスが狼谷に到着したことを見せるホルンのファンファーレの後、クラリネットの美しいソロによってアガーテの愛の旋律が演奏される。また終盤でこのアガーテの旋律が盛大に演奏され序曲は終わり、第一幕へと続いていく。

ウェーバーは楽曲の構想を特に重要視する作曲家で、オーケストレーション、つまり楽器による飾り付けは度を超すべきではないと考えていた。そのため彼のオーケストレーションは非常に透明であり、明確性を持った楽曲を作る。例えば第一主題部にはオーケストラ全ての楽器が同一のリズムもって狼谷の音楽を演奏する場面がある。このような単純なオーケストレーションは彼の構想を効果的に示している。一方で、展開部ではトロンボーンが和声的3声体を捨て、アガーテの旋律の終わりを悪魔の嘲笑のようにこだまする。古典的な全体性から楽器が解放される様は、『魔弾の射手』が既製の様式から逸脱したドイツ・ロマン派音楽への先駆けであることを示唆している。

(アラン・スミシー)

## リムスキイ=コルサコフ / スペイン奇想曲

リムスキイ=コルサコフ（1844-1908）はバラキレフ、キュイ、ムソルグスキー、ボロディンとともにロシア国民楽派の樹立に貢献した「ロシア5人組」の一員として知られている。この中で最年少であった彼は、ムソルグスキーの歌劇《ホヴァンチナ》やボロディンの歌劇《イーゴリ公》など、作曲者が生前に完成できなかった作品を補筆完成し、ムソルグスキーの交響詩《はげ山の一夜》を復元するなどロシア国民楽派の総決算を付けた人物であった。

この《スペイン奇想曲》は、交響組曲《シェラザード》、序曲《ロシアの復活祭》と並んでリムスキイ=コルサコフの管弦楽の傑作と評されている。音楽家であると同時に海軍の士官でもあった彼は、各地に航海した経験と生来の異国情緒好きから、スペイン風な音楽に強く心を惹かれ、この曲の作曲を計画したという。各楽章の主題はスペインの作曲家、ホセ・インセンガが編集したスペイン民謡集『スペインからの響き (Ecos de España)』からそのまま用いられている。彼は当初、スペイン風の主題を用いて技巧的なヴァイオリンの幻想曲を構想していた。ただこの曲を実際に書き上げたのは1887年の夏、前述にもあるようにボロディンの《イーゴリ公》を完成させる途上であったことから、管弦楽曲として作り上げるよう考えを変えたようである。

曲は5つの楽章から構成されているが、全てつなげて演奏するよう指示されており、主題の統一性も相まってまるで単一楽章から成るかのようになっている。

### I . Alborada

題名の「Alborada (アルボラーダ)」とは、アストリア地方の舞曲で、「朝のセレナード」を意味する。情熱の国、スペインらしさを表すような主題をヴァイオリンが奏で、それをほかの楽器によるリズムやトリルで盛り上げる。楽章の中間にはクラリネットが、終わりにはヴァイオリンがそれぞれソロで主題を繰り返し、最後はティンパニの音に乗って消えていくように第2楽章へとつながっていく。

### II . Variazioni

熱狂的な第1楽章から曲調は大きく変化し、穏やかな3拍子となる。まずホルンによってアストリア地方の民謡《夕べの踊り》に基づいた主題が演奏される。その後、中間部のイングリッシュホルンとホルンによる掛け合いで新たな変奏が現れる。そして《夕べの踊り》の主題を壮大に弦楽器と木管楽器が歌い、楽章の頂点を迎える。フルートの半音階とヴァイオリンの穏やかな旋律で曲は楽章冒頭に戻ったかのように静かに締めくくられる。

### III . Alborada

第1楽章と題名、主題が同じであるが、転調や旋律を木管に変えるなどのオーケストレーションの変化で新鮮さを演出している。この楽章で初めてハープが登場する。

### IV . Scena e canto gitano

題名を訳すと「シェーナとジプシーの歌」である。シェーナとは歌劇でいう「情景 (Scene)」と同義である。曲はトランペットとホルンによる情熱的なカデンツァで始まる。続いてヴァイオリン、フルート、クラリネット、ハープの技巧的なソロが奏でられ、ジプシーの歌の部分に入る。ヴァイオリン、木管楽器、チェロソロ、そして再び木管楽器と旋律が受け渡される中、楽器の増加によって曲はどんどんヒートアップし、絢爛な第5楽章へとつながる。

### V . Fandango asturiano

第4楽章からの熱を保ったまま始まるこの楽章は、アストリア地方の古い舞踏音楽をモチーフにしている。トロンボーンによる力強い主題で始まり、これが木管ではスタッカートで、ヴァイオリンソロでは変奏で用いられる。次々に旋律が各楽器にわたると、第4楽章のジプシーの歌を想起させながらクライマックスへ向かう。曲が最高潮に達したとき、再び第1楽章の主題が現れ、曲も演奏者も熱狂に熱狂を重ねながら華々しく終結する。

(日吉の母)

---

## マーラー / 交響曲第10番 嬰ヘ長調（クック版）

---

グスタフ＝マーラー(1860-1911)による未完の交響曲第10番は、決して自らの死を見据えて書いた作品ではない。重要な主題のひとつは妻・アルマ。作曲に取りかかった1910年夏、アルマと微妙なる関係にあった男と対面することになり、マーラーはひどく苦しんだのである。しかし、始めからアルマが作品の中心にあったとは言い難い。なぜならば、第1楽章から順に手をつけたマーラーが不倫事件に直面するのは、第3楽章に取り組んでいる最中と言われているからだ。前半2楽章については、別の創作動機を考慮せねばならない。

マーラーは生涯、自身の死生観と神への関心を深め、それを作品に投影しつづけた。その結果として、『大地の歌』・交響曲第9番には、俗世に対する諦観を核に、死への静かな眼差し満ちているように思われる。この2曲を経て、遂にマーラーは「天上の世界」という課題に向き合わなくてはならなかつたのかもしれない。死後の景を直視しながら、第10番に取り掛かったことだろう。前半の「死後」そして後半の「アルマ」という異質なる2つの主題が、有機的にも、精神的にも一体感を持って提示されるのが本作である。

全曲は、ごく短い第3楽章を中心に、第2・4楽章がスケルツォ、第1・5楽章が緩徐楽章の対称構造をとる。

### 第1楽章 Adagio

ヴィオラによる序奏主題は、調性もリズムも不安定である。これに加えて、跳躍駭しく浮遊感を醸し出す第一主題、皮肉的な第二主題が本楽章の中心。各主題が複数回ずつ示され、せめぎ合う。後半では、全合奏による唐突なコラール、そして破滅的な和音を経て、緊張感が解かれてゆく。

### 第2楽章 Scherzo

めまぐるしい変拍子が特徴の主部はいかにも俗世、トリオはマーラーがしばしば用いた田舎の舞踊であるレントラー風の主題が基調。マーラーがしばしば用いた、田舎の踊りである。主部主題とトリオ主題は幾度か入れ替り、混沌と絡みながら華やかに楽章が終わる。

### 第3楽章 Purgatorio

題は、天国にたどり着く前の浄化の場所の意。冒頭部分は『少年の魔法の角笛』の中でも悲劇的な歌詞を持つ「この世の生活」より引用しているが、中間部では一瞬そこから抜け出したような快さがある。本楽章の肝はヴァイオリンによる、泣き叫ぶような下行楽句。これには「死よ！零落よ！」、「憐れみたまえ！おお神よ！おお神よ！」なぜあなたは私を見捨てられたのですか」「御心のままになしたまわんことよ！」といった書き込みがなされている。この音型は、楽章冒頭に登場する三音動機とともに、後の楽章でも重役を担う。

### 第4楽章 [Scherzo]

手稿表紙に「悪魔が私と踊る」と書き込みがある。主部は劇的で第3楽章に登場した三音動機をも孕む一方、トリオは清潔で美しい。全く対照的な二部が互いに侵しあいつつ入れ替わり、その狭間には第3楽章の下行楽句が登場する。徐々に衰えてきたところで、舞台裏の太鼓の一打。「お前だけがこの意味するところを知っている。ああ、ああ、ああ、さようなら私の豊饒よ」という書き込みがあるのだが、これについてアルマは、ニューヨークで目の当たりにした、殉職消防士の葬儀の太鼓だと回想している。

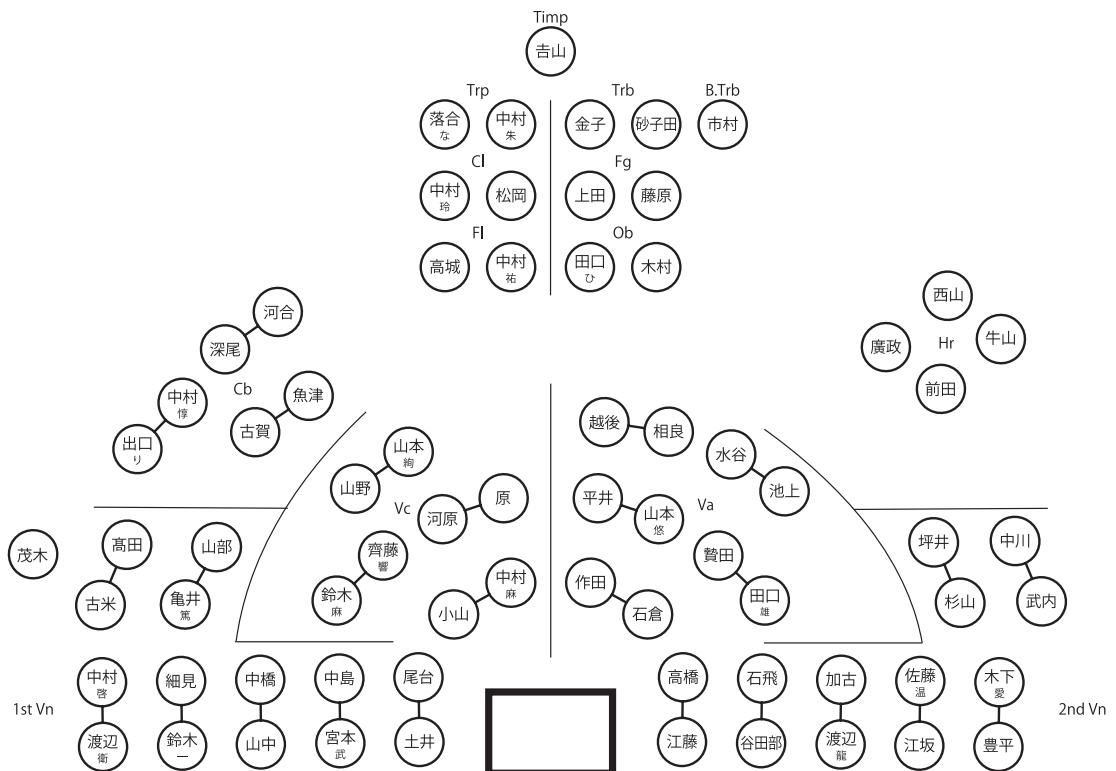
### 第5楽章 Finale

葬送的な序奏は、弱奏の三音動機を交える。かの下行楽句から派生したホルンは、フルートの主題を導き出す。主部は軽快に始まるが、あくまで三音動機と下行楽句を中心力を得ながら進む。そして、唐突に第1楽章の破滅的な和音が今度は三音動機とともに登場。ホルンが第1楽章の序奏主題を回想した後、再び盛り上がりを見せる。静かな三音動機の反復により音楽が沈むと、最後は弦楽器の悲痛なグリッサンド、そして下行楽句である。

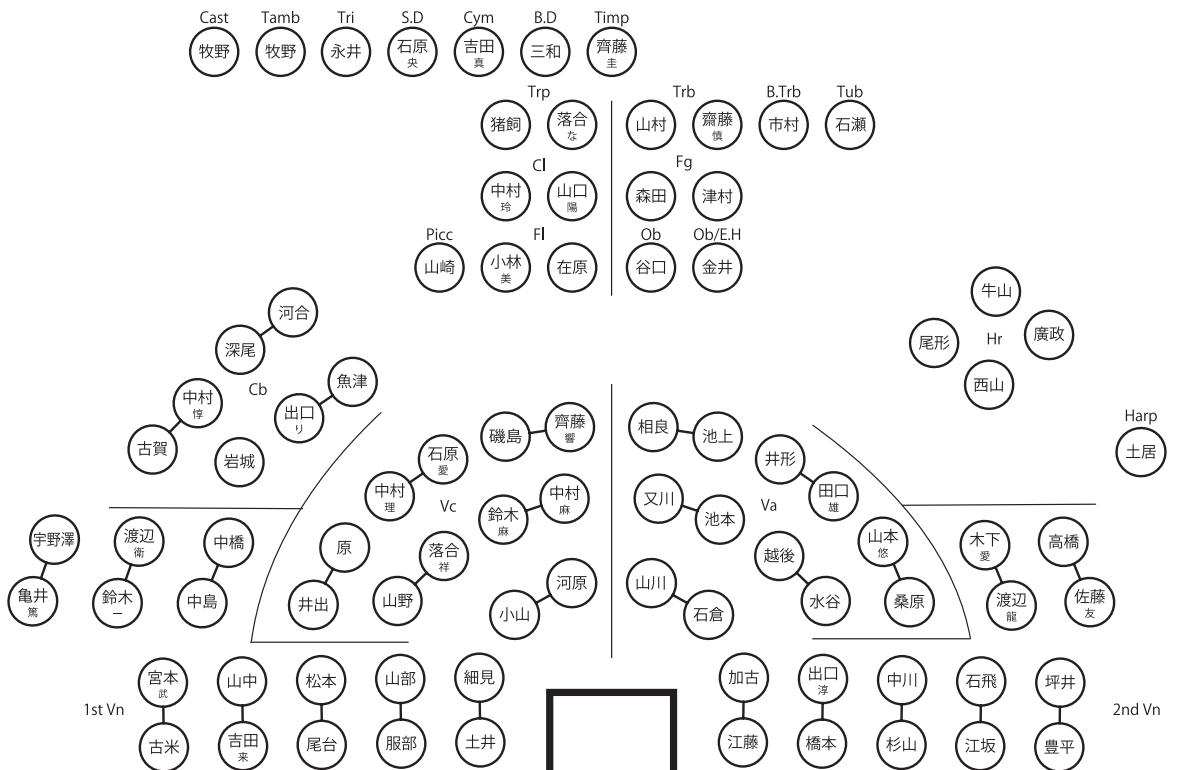
全曲の末尾には「お前のために生き、お前のために死ぬ！」という書き込みがある。1910年夏にアルマに贈った夥しい数の詩の内容からも示唆されるが、マーラーにとって死後とは、アルマのいる場所を意味したように思われる。ただし、交響曲第10番によって、苦しみが浄化され、アルマを取り戻せたのか—それは私たちには知り得ないことだろう。

(まや子)

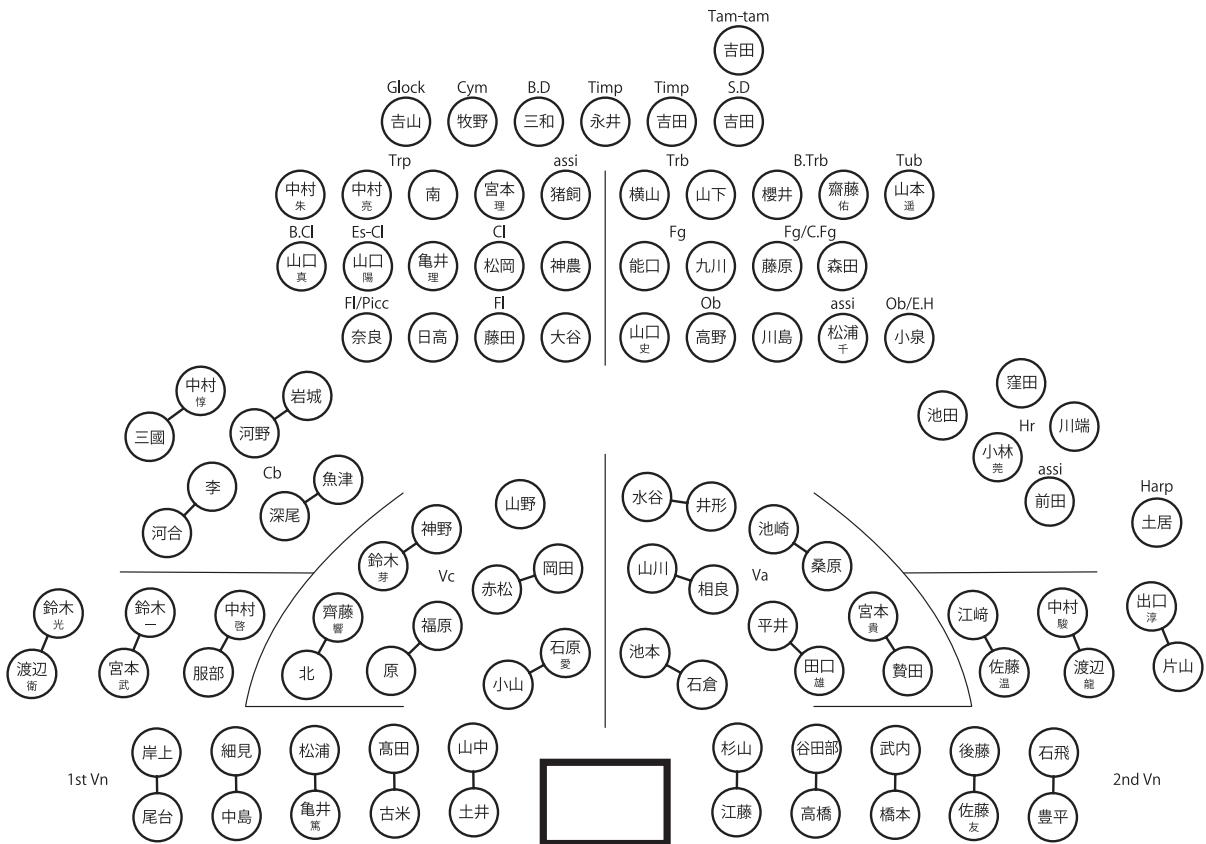
## ウェーバー / 『魔弾の射手』序曲



## リムスキイ＝コルサコフ / スペイン奇想曲



## マーラー / 交響曲第 10 番 嬰ヘ長調(クック版)



上記内容はやむを得ない事情により変更となることがございます。  
あらかじめご了承ください。

# 活動報告

Report

## 2018年

- 1.10 福澤先生誕生記念会における演奏
- 2.11 第223回定期演奏会 サントリーホール 大ホール  
指揮：大河内雅彦  
曲目：ブラームス / ピアノ四重奏曲第1番 ト短調 シーンベルク管弦楽編曲版 他
- 2.22 - 3.11 海外演奏旅行（プラハ、ミュンヘン、ウィーン、ブダペスト）
- 4.1 パークハウス浜田山における演奏
- 4.2 慶應義塾大学入学式における演奏
- 4.14 ライオンズクラブ式典における演奏
- 6.16 第224回定期演奏会 ミューザ川崎シンフォニーホール  
指揮：大河内雅彦 曲目：フランク / 交響曲 二短調 他
- 6.28 ハンガリー大使館主催 V4コンサートにおける演奏
- 8.4 フィリアホール主催 夏休みコンサート2018への出演
- 8.26 日本テレビ「24時間テレビ」における演奏
- 10.14 第225回定期演奏会 すみだトリフォニーホール 大ホール  
指揮：藤岡幸夫 曲目：リヒャルト・シュトラウス / アルプス交響曲 他
- 10.27 柏三田会における演奏
- 10.28 第64回慶應義塾ワグネル・ソサイエティー恵明学園訪問演奏
- 11.27 ひよし保育園における訪問演奏
- 12.1 下平間文化センタークリスマス会における演奏
- 12.8 慶應病院サンタ企画における演奏
- 12.18 第23回慶應医学賞受賞式における演奏

## 2019年

- 1.10 福澤先生誕生記念会における演奏
- 1.12 BSテレ東「エンター・ザ・ミュージック」への出演
- 1.26 小平三田会における演奏
- 3.3 第226回定期演奏会 サントリーホール 大ホール  
指揮：飯守泰次郎 曲目：マーラー / 交響曲第5番 嬰ハ短調 他
- 3.31 パークハウス浜田山における演奏
- 4.1 慶應義塾大学入学式における演奏
- 5.25 我孫子三田会における演奏
- 6.12 株式会社饒田パーティーにおける演奏
- 6.22 第227回定期演奏会 東京芸術劇場 コンサートホール  
指揮：川本貢司 曲目：ラフマニノフ / 交響曲第3番 イ短調 他
- 8.3 フィリアホール主催 夏休みコンサート2019への出演
- 9.16 第65回慶應義塾ワグネル・ソサイエティー恵明学園訪問演奏
- 10.6 第228回定期演奏会 すみだトリフォニーホール  
指揮：太田弦 曲目：シベリウス / 交響曲第1番 ホ短調 他
- 11.23 産婦人科学教室100周年記念パーティーにおける演奏
- 12.19 第24回慶應医学賞授賞式における演奏

## 2020年

- 1.10 福澤先生誕生記念会における演奏
- 2.12 - 20 国内演奏旅行（京都、福岡）

# 演奏会のご案内

## 『第 230 回定期演奏会』

2020 年 6 月 26 日 (金) 夜公演 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮：川瀬 賢太郎

曲目：ドヴォルザーク / スケルツォ・カプリチオーソ 作品 66

バルトーケ / ハンガリーの風景

ドヴォルザーク / 交響曲第 7 番 ニ短調 作品 70

## 『第 231 回定期演奏会』

2020 年 10 月 24 日 (土) 夜公演 すみだトリフォニーホール 大ホール

指揮：藤岡 幸夫

曲目：未定

## 『第 232 回定期演奏会』

2021 年 2 月 14 日 (日) 昼公演 サントリーホール 大ホール

指揮：大河内 雅彦

曲目：未定

Facebook、Twitter 及び Instagram の公式アカウントでは、演奏会情報などを隨時お知らせいたします。是非ご覧ください。

\* **Facebook**

wagner.society.orchestra

\* **Twitter**

@wagner\_society

\* **Instagram**

@wagner\_society

\* **HP**

<http://www.wagner-society.net/>

皆様のフォロー、いいね！をお待ちしております。



ホテル エバーグリーン富士  
**EVERGREEN FUJI**

山梨県富士吉田市上吉田4658-1 Tel 0555-24-5131 Fax 0555-24-5711



# 横浜ラーメン 武藏家

ライス無料サービス！おかわり自由！



営業時間  
[月～木・日]11:00～翌1:00  
[金・土]11:00～翌2:00  
日曜営業 定休日無休



# 麵屋六三 日吉店

美味しい  
台湾まぜそば！

営業時間  
平日11:30～22:30  
土日祝11:30～20:30

# らーめん 柴田商店



TEL 045-563-8368  
営業時間11:00～翌1:00  
日曜営業  
定休日水曜日

# ベトナムの食卓 HOA HOA

営業時間  
ディナー 日～木 17:30～23:00  
金・土 17:30～24:00 ランチ 11:30～15:00  
日曜営業  
定休日火曜日ランチのみ営業いたします  
(ディナーはお休み)



営業時間 11:30～22:00  
(都立大学店は22:30)



<http://sushi-gyoshin.com>



# ラーメンどん

電話番号 : 045-564-1721

住所 : 神奈川県横浜市港北区日吉2-1-8  
営業時間 : 月曜～土曜11:00～翌2:00  
日曜11:00～22:00





リバテ

横浜日吉本町本店  
営業時間 16:00~25:00  
TEL 045-565-0755

日吉本町浜銀通り店  
営業時間  
月: 16:00~23:00  
火~木、日、祝日、祝前日: 16:00~翌1:00  
金、土: 16:00~翌3:00



南房総国定公園・岩井海岸

# 四季の宿 御<sup>お</sup>目<sup>め</sup>井<sup>い</sup>戸<sup>と</sup>荘

〒299-2223 千葉県南房総市高崎1175  
Tel.0470-57-2046 Fax.0470-57-4339  
<http://www.omeidoso.com>

プラスバンドからオーケストラまで  
楽器輸送のエキスパート 田中陸運株式会社

<http://WWW.t-rikuun.com>

神奈川県川崎市高津区坂戸 2-25-7  
TEL044-322-9701 FAX044-322-9700  
フリーダイヤル 0120-696-566




**入門初級大歓迎**



**テニスレッスン付き練習会**

**テニスいちば@足立 (初級テニス練習会)**

✉ [tennis\\_ichiba\\_adachi@yahoo.co.jp](mailto:tennis_ichiba_adachi@yahoo.co.jp)

<http://ichibaadachi.wp.xdomain.jp>

土日ナイト、男女10~30代募集 (学生OK)

就職活動 (自己PR・面接・TOEIC・FP・簿記) 支援



**【広告掲載のお願い】**

当団では、定期演奏会パンフレットに協賛として広告を掲載しているだけの企業様を募集しております。皆様のお力添えをいただければと思います。詳細はメール・電話で対応しております。

**【お問い合わせ】**

E-mail:[wagner.society.pr@gmail.com](mailto:wagner.society.pr@gmail.com)  
TEL:070-5021-0105  
2019年度広報係

---

## 依頼演奏会のご案内

---

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラでは、定期演奏会に加え、さらに積極的な演奏活動を行う目的で、依頼演奏会を承っております。主に企業・官公庁・学校等主催のイベントや、各種パーティー・結婚披露宴等への出演依頼を多数いただいております。特に小・中学校の音楽鑑賞教室等では、通常の演奏だけでなく、オーケストラで使われる楽器の紹介・校歌のアレンジ・生徒との合同演奏や「君も指揮者コーナー」などの企画をご用意しており、ご好評をいただいております。

演奏の編成は、オーケストラから、金管・木管・弦楽アンサンブル等小規模のものまで、また曲目もクラシックだけでなくポップス音楽等、ご要望に合わせて幅広くご用意しております。どうぞご活用ください。

---

### お問い合わせ

**2020 年度依頼演奏会マネージャー 江坂 健太**

TEL : 080-8760-7212

E-mail : kentaesaka.wagner2020@gmail.com

HP : <http://www.wagner-society.net>

---

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ 第 229 回定期演奏会

---

制作・編集	上田 雄斗
	落合 祥子
	北 陽菜子
	神野 薫子
	鈴木 光
	中村 慎
監修	山口 真央
発行人	落合 なつ美
	尾形 舜
印刷所	(株)精興社
発行日	2020 年 3 月 24 日

---

